

心房細動の冷凍カテーテル

やまなし

医療最前線

《 142 》

県立中央病院から

不整脈の一つで、脳梗塞や心不全の原因にもなる心房細動。高齢化に伴い患者が増える中、県立中央病院はカテーテル治療に積極的に取り組んでいる。心臓の内壁を熱で焼き、異常な電気信号を遮断する「高周波カテーテルアブレーション（心筋焼灼術）」に加え、6月から、心臓の一部を冷凍して壊死させる新治療「冷凍カテーテルアブレーション」を導入。従来の治療法より治療時間が短く、再発率の低下も期待できるといふ。

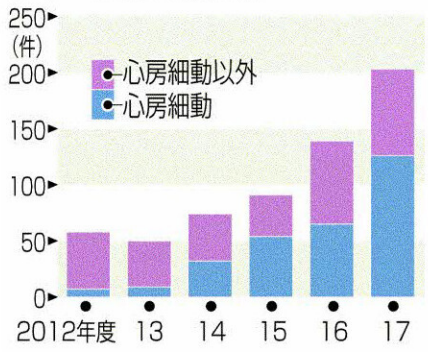


矢野 利明
循環器内科医長

循環器内科医長の矢野利明医師によると、カテーテルアブレーション

面で壊死 再発率抑える

県立中央病院での不整脈に対するカテーテル治療件数



ヨンは技術の進歩により心房細動以外のさまざまな頻脈性不整脈に対する標準治療となっている。同病院は近年、治療が難しいとされる心室性期外収縮、心室頻拍などの不整脈治療にも取り組み、件数は増加し続けている。

心房細動は、左心房と肺をつなぐ4本の肺静脈で異常な電気が発生し、心臓に流れ込むことが主な原因。高周波カテーテルアブレーションは、足の付け根の血管から左心房にカテーテルを入れ、肺静脈の入り口を高周波でリング状に焼くことで異常な電気信号を断ち切る。発作を繰り返すと頻度や症状の持続時間が増し、慢性化する恐れがある。さらに心機能の低下から脳梗塞や心不全を引き起こすこともあるという。矢野医師は「慢性化すると治りにくくなるため、早期治療が大事。動悸の症状や健診で異常が見つかったら早めに受診してほしい」と話している。

「従来のアブレーションは点をつないだ線で焼くのに対し、新しい治療法は面で一気に焼くことが可能」と矢野医師。治療時間が短く、焼き残しが少ないことから再発率が低くなるという。対象は主に発作性の心房細動で、1回の治療で7〜8割、2回の治療で約9割が治るとされる。

切る。一方、冷凍カテーテルアブレーションは、カテーテル先端のバルーンを左心房で膨らませ、肺静脈の入り口部分に押し当てた後、冷却ガスを注入して風船に接した部分の組織を冷凍して壊死させる。

「従来のアブレーションは点をつないだ線で焼くのに対し、新しい治療法は面で一気に焼くことが可能」と矢野医師。治療時間が短く、焼き残しが少ないことから再発率が低くなるという。対象は主に発作性の心房細動で、1回の治療で7〜8割、2回の治療で約9割が治るとされる。